



和土小だより



児童数 男子 98名
女子 75名
総計 173名

発行責任者 校長 辻 美由紀

「未来に向かって力強く生きる」とは

校長 辻 美由紀

開校記念日の5月29日、春季大運動会では、子ども達の真剣な眼差しや力いっぱい取り組む姿に心を動かされました。全ての子どもたちが揃うことは、昨年度にはない風景でしたので、一つの行事をみんなで共有できる喜びを感じるとともに、このようにできることは当たり前ではないのだ、との思いを強くしました。子ども達をはじめ多くの方のご理解ご協力あってのまさに奇跡の時間なのです。保護者の皆様には、密を避けての応援ということで、入替え制で子ども達の活躍をご覧いただきました。一人ひとりの全力で取り組む成長した姿、また、周囲の友達と声を掛け合いながら力を合わせて活動している姿をご覧いただけたかと思います。後者は、学校教育の大きな魅力の一つであると考えています。

さて、そこで今月の話題です。大変素直で、のびのびとした和土っ子達。可愛らしくて、私は大好きなのですが、「未来に向かって力強く生きる」と学校教育目標に掲げているのには、理由があります。先生方の「〇〇しましょう」の言葉には、「はい」と素直に返事をして取り組む和土っ子達。ところが「じゃあ、どうする？」と投げかけると「・・・」自分で考えること、決めることをあまりしたがない様子が見られるのです。子ども達みんなではありませんが、多いように感じています。まずは「自分なりの考えをもち、伝えようとする気持ち」「自分のことを他人に伝える言葉」を身に付けることで、予測不可能なこれからの世界で力強く生きていってほしい…と考えてこのような目標掲げているのです。運動会等の行事では、本番に至るまでに「自分の思いをもって取り組んでほしい」「友達に自分の思いを伝えて困っている場面を切り抜けようとしてほしい」そんな思いをもち、練習を設定したり、子ども達の声を聞いたりする機会があります。

そんな時に、上手に子どもの気持ちを引き出し、行動につなげてあげることができたら…。結果ではなく、その過程が大切なのです。そこで、私が感銘を受けた、「子ども達を自律に導く3つの言葉がけ」を早速本校の教職員みんなで取り組んでみようと考えました。この言葉は、多くのメディアでも取り上げられた麴町中学校の元校長工藤勇一さんとその中学校での研究に携わった脳科学者青砥瑞人さんの共著「最新の脳研究でわかった！自律する子の育て方」(SB新書)の中に出てきます。まずは、自分の状態を言葉にできるように。

そして、意思を確認し、問題解決の手助けをする、というものです。言うは易く行うは難し。「ついつい、子どもの言葉を待たずに、先に進めてしまう。」というのは、私達、教職員の反省です。取組は始まったばかり。私達もこれから、一層子どもの思いを、言葉を待ち、行動につなげたいと考えております。これは、ご家庭でも、効果があるとのこと。ぜひ、子ども達の思いを、言葉を待ち、背中を押していただけたら、と思います。

例年より早いのでは…と心配していた梅雨もこれから。今年度は、工夫をしながら水泳の学習も実施しようと考えております。天候不順の折から、保護者の皆様、地域の皆様も、体調にはお気を付けいただき、晴れやかにお過ごしいただけるよう願っております。

自律につながる「3つの言葉がけ」

- 1 「どうしたの？」
(「なにか困ったことはあるの?」)
- 2 「君はどうしたいの？」
(「これからどうしようと考えているの?」)
- 3 「何を支援してほしいの？」
(「先生に何か支援できることはある?」)

「最新の脳研究でわかった！自律する子の育て方」より

未来に向かって力強く生きる ひとみ輝く 和土っ子の育成

○やさしい子 ○かしこい子 ○たくましい子

やさしさいっぱい 力いっぱい やる気いっぱい

